

# 瞳輝いて



ゆうへい  
川上 祐平くん (笠岡東中2年)  
あつし  
惇司くん (中央小6年)

## ダブル全国大会出場の卓球兄弟!!

惇司くんは、9月に神戸で開催された全日本卓球選手権大会のホープスの部(シングルス)へ出場。その兄、祐平くんは11月の同大会カデットの部(ダブルス)で5位入賞を果たしました。

もともと二人のお兄ちゃんがやっていた卓球。お母さん曰く、ラケットを見てお父さんとの交流を図るにはこれしかない遊びでやらせてみたのがきっかけで卓球を始めました。そのとき祐平くんは小学2年生、惇司くんは保育園児でした。

2年前に「もっと強くなりたい」と思い始め、あちこちのクラブを見て回り、総社のクラブへ入りました。現在、週4日は総社まで通い夜遅くまで練習に打ち込んでいます。

二人の持ち味は祐平くんがフットワークで惇司くんがサーブと、全くの別のプレースタイルなんだとか。

二人とも卓球はずっと続けていくそうで、「シングルスでも活躍できる選手になりたい」(祐平くん)、「ランク(8位以内)に入れるようになりたい」(惇司くん)と語っていました。

## 展覧会のご案内

「竹喬の素描 初公開作品を中心に」

11月27日(土)～  
平成17年2月6日(日)

新収蔵の竹喬のスケッチ類を公開します。  
年末年始の休館日は12月29日～1月3日です。1月4日は、新春プレゼントのくじ引きをします。

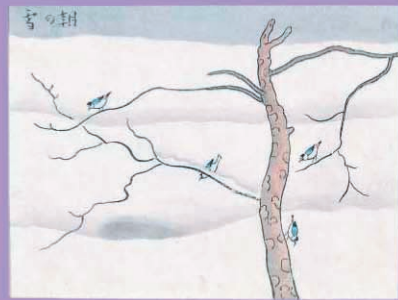


〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
Tel.63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

枯れ木の向こう側に、夜のうちに降った雪がふんわりした雪を作っている。雪の翌朝の澄んだ空気の中で、それぞれ異なる動きを見せる小鳥の様子が可愛らしい。いずれの小鳥も人間の気配に驚く様子がないことから、凍てつく寒さの中、鉛筆を持つ手には手袋もせず、周囲に同化するかのようにして静かにスケッチをする竹喬の姿が浮かんで来る。

よく言われることだが、京都の冬は冷え込みが強い。14歳以降をずっと京都に暮らした竹喬は冬が苦手だったという。特に自宅があった等持院のあたりは市内とは雪の層までも違っていると語っていて、自宅付近で行うことが多かったという屋外写生は楽なことではなかっただろう。

寒さに弱いといえながら、竹喬は冬から初春の景色を描くのを好んでいる。積もった雪も、竹喬が描くと暖かな雰囲気を持ってくる。「天皇の世紀」の挿絵として新聞に載った当時は白黒で人目に触れたが、実際の画面はやわらかな白い雪を背景に、小鳥の青い羽が鮮やかだ。



「雪の朝」

小野竹喬 作

朝日新聞「天皇の世紀」挿画  
昭和43年1月9日掲載  
14.8×18.9cm

竹喬美術館の光彩 24



発行日/平成16年12月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/まちづくり推進課  
〒714-8601笠岡市中央町1-1  
Tel.69-2110

印刷所/株式会社正文社印刷所 ☎66-1687

## 係から

今月号の広報紙は、紙面の中でも紹介しているとおり、中学生のかわいい後輩たちがお手伝いをしてくれました。二人とも最初のうちはとまどいながらも、なんだかメラをもつ手もぎこちない。でも、最終日もなると、なかなか取材する姿が様になっていました。やっぱり、若いと吸収力がちがうのかな？

ちなみに表紙の写真、そのひとりが撮った一枚。私よりうまく撮れててちよっとショックだったりして…。(向)

11月19日、NPO法人子ども劇場笠岡センターでは、ひよこの会が、毛糸を使ったクリスマス飾りづくりを行いました。

参加した約20人の親子は、講師の先生の指導を受けながら、かわいいひよこサンタクロースを作りました。できあがると子どもたちは大はしゃぎ。「できた!!」と大きな声をあげていました。一足早くやって来たサンタさん、みんなクリスマスまで大事にしてね!

## 今月の表紙



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス: [machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp)